

アジア

AR250

2025年5月～8月号

リポート



喜びの献堂式と鋤入れ式

バングラデシュ会堂建設レポート② 吉田 隆

2024年会計報告

表紙写真：バングラデシュ



喜びの献堂式と鍬入れ式

献堂式テープカット

バングラデシュ会堂建設レポート②

アジア・アウトリーチ・ジャパン主事 吉田 隆

2023年にこのアジア・レポートを通してお願いしました、バングラデシュの会堂建築の実を、この度、バングラデシュに行ってみせていただくことができました。

いままで、この経緯についてお読みくださった方もいらっしゃるかと思います。主が成してくださったお働きを確認するために、もう一度振り返って書かせていただきたいと思います。

キリストのからだがあるのに、会堂がない村々

2023年3月、私はバングラデシュの6つの村を訪問しました。そこは近代宣教の父と言われたウィリアム・ケアリ宣教師が福音の種を蒔いた地域でもありました。そして、それらの村々には福音を信じる人々、キリストのからだなる教会が生まれてきていました。村によって差はあるものの、多くの村では200人を超える信者がおり、また求道者たちも与えられていました。

ところが貧しさのゆえに、集まって集会をする会堂がないのです。私たちがそれらの村々を訪問すると、信者の人々が屋外の広場に集まって歓迎をしてくださり、そこで集会が始まりました。近所の未信者の人々が周りを取り囲んで聞き耳をたてています。

バングラデシュの気候は、一年のほとんどが暑く、日差しが照りつくと、いよいよ暑く感じます。また5月から10月にかけては雨季が続く、その間大雨が降るために地

面は泥だらけになり、広場での集会は困難になります。信徒の家に集まると言っても、狭くて限界があります。

そこで私は、この地域に伝道をしてこられたバングラデシュ人の牧師であるアルバート先生に「ここにしっかりとした会堂を建設するためにはいくらのお金がかかりますか?」と尋ねました。すると「18,000米ドルぐらいです。」とお答えになりました。一つの会堂につき約300万円のお金が必要なのです。そのようなお金が果たして集まるだろうか? 主の前に祈りつつも、私は日本に帰国しました。

応答してくださる方が起こされる

私は主の前に、どのようにして訴えたならばこのために献金を献げてくださる方々が与えられるだろうか?と祈りました。そして、「50万円以上をお献げくださった方々のためにはそのお名前をバングラデシュの村の会堂の入り口に刻んで、その教会のメンバーは覚えて祝福をお祈りする」という、一種の契約を生ける神様の前に交わそう」という考えが与えられました。そして、そのようにアピールしました。バングラデシュの教会のメンバーには、会堂が完成する前から名前を提示し、献金者のためにお祈りいただきました。

神様が働いてくださり、この会堂建設のために覚えてお祈りくださる方が起こされ、50万円は大金であるにもかかわらず、そうした献金が与えられ始めたのです。しかも

個人の方々からも送られてまいりました。その中には、自分の名前を刻む代わりに、自分の教会の名前を刻んで祈ってくださいと、匿名でお届けくださった方もいらっしゃいました。

国際送金の困難

集められた献金をバングラデシュに送る段階で、困難に直面しました。現在、マネーロンダリングという犯罪が横行しており、お金を海外に送るのが非常にむずかしくなっていることに直面しました。しかも、バングラデシュという国には送金ができないという金融機関もありました。

一刻も早く会堂建設に取り掛かってほしいのに、障害にぶつかりました。そうこうしている間に、バングラデシュで2024年8月にデモが起こり、政府に反対する革命が起こったのです。バングラデシュの首相はインドへ亡命し、国内の治安は悪くなりました。一時はインターネットも使えなくなり、クリスチャンやキリスト教会に対する迫害も起こりました。更に、円安が続き1ドルに換金するためにより多くの円が必要になりました。バングラデシュ国内では鉄など建築資材の値段が高騰しました。

主は道を開かれる

こうした困難が続く中でも、主は道を開いてくださり、2024年11月までに第一会堂建設に十分な献金がバングラデシュ側に届きました。そして、第一会堂の鋤入れ式が11月15日に行われました。私はそこに出席することはできませんでしたが、アルバート師は会堂建設の進展の様子を写真に撮り、忠実に送ってくださいました。

献堂式

そしていよいよ2025年2月14日、私はKBI（関西聖書学院）のアウトリーチ・チームのメンバーと共に、パトゥパラ村に完成した第一会堂の献堂式に出席することができました。しっかりとした会堂でアルバート牧師は、「この会堂は主イエス様が再臨されるまでここに立ち続けることができると信じます。」と語られました。



会堂入り口に掲げられた献金者の名前



鋤入れ式

鋤入れ式

同じ日の午後、私たちはダルカマリ村に向かいました。ここで次に建設される第二会堂のための鋤入れ式が行われました。ダルカマリ村にはまだ会堂がありませんから、会堂が建つ予定の横の土地で、集会は屋外で行われました。この会堂が5月に雨季が始まる前に完成することを祈りました。

私たちは、日本からの献金に依存するのではなく、現地の方々も犠牲を払って自分たちの会堂に寄与してほしいと伝えていました。そこで、自分の土地を会堂建設のために献げてくださった牧師夫人が紹介されました。(写真右)



日本がバングラデシュのためにできること

世界で最も福音が行き届いていない最大の人口は、第一位がバングラデシュのベンガル族であり第二位が日本人です。日本の企業には力があるかもしれませんが、日本の教会やクリスチャンには財政的な力は十分にありません。しかし、二つの会堂をバングラデシュのクリスチャンのために建設することができました。

イスラエルには二つの湖があります。一つは死海です。この湖は大きいですが、水が入ってくるだけでどこにも排出しません。もう一つはガリラヤ湖です。この小さな湖は水を出して、他を潤しています。

私たちができることをもって、神の国がこの地上で拡大するために貢献していきたいと思います。



先日4回目のミャンマー宣教に行き、ヤンゴンの聖書学校での講義、礼拝の説教、そして孤児院の訪問をしてきました。ところが、帰国日に空港で、黒スーツ姿の40名余りの若い女性たちと出会いました。これから日本に働きに行くと、日本語で話してくれました。

数年前のクーデター以来、この国は内戦が続き、経済は破綻し、女性でさえ徴兵される危険があります。そんな厳しい状況の中、彼女たちは自分の国を出て、日本での生活に希望を持っているようでした。

クーデターの前にもこの国を訪ねましたが、当時の社会は貧しくても活気に満ちていました。それは、民主化が進み、平和になり、これから国は発展して豊かになるのだという希望が人々にあったからです。しかし、このクーデターにより、国軍の独裁政治が復活し、その希望は再び打ち砕

かれてしまいました。

このように、世の中にある希望は、永遠に続くものではありません。しかし、キリストだけは永遠に続く希望です。ですから、私たちの教会では、ミャンマーの教会を献金や訪問によって、長年支援してきました。そして、今のようないきつ状況の時こそ、いっそう支援に力を入れています。それが、現地の教会を大いに励ますことになるからです。

そして、アジア・アウトリーチの宣教の働きも、そのようなことに他なりません。現地の教会を励ますことで、キリストの福音は力強く広がっていきます。ですから、この働きのためにどうぞお祈り下さい。そして、アジアの諸教会のために、献金のご協力をお願いいたします。海外宣教の働きに参加できることは特権であり祝福であることを、私は自分の経験から強くお勧めいたします！

アジア・アウトリーチ・ジャパン 2024年度 会計報告 (2024年1月1日～2024年12月31日)

収 入		支 出	
一般献金	1,294,150	貸室料、印刷代、郵送料、広報	1,903,614
海外向け指定献金	1,162,277	海外送金	5,149,155
2024年能登半島地震義援金	36,050	2024年能登半島地震義援金	30,643
物品販売	55,000	物品販売からの海外向け送金	10,000
スタンレー師デビューション	657,000	スタンレー師への献金(来日渡航費を含む)	649,914
その他	936,272	その他	51,000
前年からの繰越金	6,709,155	次年度繰越金	3,055,578
総合計	10,849,904	総合計	10,849,904

上記の通り間違いありません。

2025年2月1日

主事：吉田 隆 会計：レフトサーリ・サミベッカ神之助 監査：中島 教芳

編集後記

- アジア・アウトリーチ・ジャパンを通して、日本の教会がバングラデシュのキリスト教会の会堂がなかった二つの村に会堂を建設できたことを感謝します。これから、二つの国のクリスチャンたちが、それぞれの国で、神の国が拡大し、前進するために祈り合っていくことができることを感謝します。
- 3月22日から3月31日まで、マレーシアのスタンレー・ジェラード師ご夫妻が来日され、主に京都・大阪を中心に教会で奉仕してくださいました。奥様の来日は今回が初めてでしたが、お二人とも初めての日本の桜を満喫してくださいました。
- アジア・アウトリーチ・ジャパンでは、毎月アジアの異なる国の宣教情報を提供させていただき、1か月その国のために

お祈りいただいております。ウェブサイトからご覧いただけますが、毎月の配信をご希望の方は、aojapan@zeus.eonet.ne.jp までお申し込みください。

- アジア・アウトリーチ・ジャパン主事の吉田隆と恵利子は4月下旬から7月下旬にかけて3か月間、フランス・パリのプロテスタント日本語キリスト教会での牧会伝道のために派遣されています。
- アジア・アウトリーチ・ジャパンのウェブサイトをお楽しみください。 <https://aojapan.org>

迫害されている
クリスチャンの
ために祈ろう！
hakugai.org